

## 第2回 宝塚市教育環境のあり方協議会議事録（要約版）

- 1 日 時 平成23年9月6日（火） 18:00～20:00
- 2 場 所 市役所3-3会議室
- 3 出席者 委員4人（欠席1人）、事務局職員等9人
- 4 内 容 次のとおり

（内 容）

### 1 開会

### 2 議事

#### （1）第1回協議会の議事録について

- ・ホームページには要約版の議事録を掲載することで決定。

#### （2）学校長からの意見聴取等

#### 長尾小学校長

- ・9月1日現在で児童数が1,285人、教職員数が74人、通常学級38クラス、特別支援学級5クラス、計43クラス。兵庫県で一番大きな学校と聞いている。
- ・通常学級で配慮を要する児童や特別支援学級の在籍児童など、配慮を要する児童だけでも大変多く、教員が十分な共通理解とまではなかなか行きにくい現状である。
- ・体育館は狭く、式典は放送や運動場などで行っている。プールは他校と同じ広さなので、水泳指導が十分にできない問題もある。
- ・教職員は、74人もおり、管理については、人間関係の調整など、難しい問題がある。
- ・PTA活動については、139年の歴史があり大変活動も熱心である。
- ・長尾、山手台の両コミュニティとも、子どもたちの健全育成や地域の安全・安心を含め、熱心に取り組んでいただいている。
- ・児童数の推移では、平成29年度には超マンモス校になる予想がある。大きな学校で、難しい問題が多々あるので、児童数を減らしていく方向を考えていく必要がある。
- ・運動場も児童数1,300人に対しては広くない。今は業間の休みや昼休みも開放して、全校生が運動場に出る。今のところ、けがは少ないが、今後危惧される。

#### 西山小学校長

- ・児童数は644人で、平成19年から平成23年までの児童数が483、531、548、585、650と、年々増えてきている。
- ・逆瀬川の近くにあり、典型的な郊外住宅地の中にある。学校教育への関心も非常に高く、PTA、地域コミュニティは学校と協力しながら意欲的に活動されている。
- ・全体に明るくて素直でまじめに何事にも取り組む子どもたちが多。子どもは落ちついていて状況があるが、反面、覇気がないようにも見受けられる。素直な面があるが、子ども同士の間人間関係が淡泊なように見受けられる。
- ・来年の音楽会は2交代制を考えている。保護者全員が体育館には入れない状況になっている。
- ・昨年運動場に育成会室が建ち、運動場が狭くなっている。今後、児童数が増えてプレハブということになれば、大変な状況が生じるのではと思っている。
- ・教職員の管理だが、県費が33人、市費がアルバイトを入れ10人、新学習システム等に3人計46人になる。管理職だけで見ていかななくてはならず、苦慮している。
- ・校区再編になった場合に、例えば、宝梅自治会自体が一小と西山に分かれており、校区編制外になったときに問題が生じてくるのではないかと思う。
- ・現在23クラスだが、余裕教室がない学校で、今後、教室が不足する状況も考えられる。

※ 宝塚第一小の課題（宝塚第一小校長からの聴き取りを報告）

- ・プレハブ校舎は、運動場に 2 階建てで設置。1 階視聴覚室、相談室、生活課室。2 階 2 年生 1 組、2 組、理科室。
- ・運動場が一段と狭く、子どもたちが思い切り遊べない。
- ・冷房が効かない。
- ・戸締まりが別なので防犯上注意を要する。
- ・給食配膳室がないため、2 年生が北館に入り階段を使用しなければ給食が運べない。
- ・使用する学年、クラスの子どもの不公平感がある。
- ・学年が同じ階、館に入ることができない。
- ・理科室が一つしかなく、高学年の実験を行うに当たって調整が大変。
- ・体育館が狭くて始業式等 2 回に分けて実施している。
- ・音楽会も数回に分けて実施しなければ保護者が入れない。
- ・体育の時間割り配当もクラス数が多いため、一クラスで運動場を使用できない。
- ・体育の授業は他の学校と比べて思いきり行うことができない。 等々。

### 南ひばりガ丘中学校長

- ・市の一番東端になり、川西市、伊丹市に隣接する。生徒数は 520 人、学級数は通常学級が 14、特別支援学級が 3 計 17 学級である。教職員の常勤数は県費が 33 人、市費が 7 人、計 40 人である。
- ・子ども同士の間関係だが、落ちついた感じである。
- ・加配教員、生徒指導や学習システム、非常勤ではスクールカウンセラーや子ども支援サポーター、特別支援学級の介添え員、介助員、生活指導補助員、別室登校指導補助員など多くの非常勤の臨時講師が在籍し、子ども達へのかかわりが厚くなっている。
- ・概ね 8 割の生徒が部活動に加入している。教員の高齢化などで顧問のなり手がなくことも課題である。また、部活動は、入学のときの大きな目標でもあるが、入りたい部活動がないということもあり、学校を越えての部活動を考えていく必要がある。
- ・非常勤等も含め 50 人を超える教職員がいる。情報交換や生徒へのかかわり、また教師、担任との橋渡し、きめ細やかな配慮は特に要している。
- ・PTA、地域とも非常に協力的で、感謝している。
- ・本校は、ひばりと長尾のコミュニティとなる。コミュニティは、小学校単位であり、特に強いかかわりはなく、中学校区育成市民会議等が中心である。
- ・市内で唯一電車通学が認められている。川西市との市域界が非常に複雑で川西市を通学路にしている生徒もいる。他市で事故の不安もあり、校区のいびつ性は否めない。
- ・生徒数の割には運動場が狭い。野球、サッカー、陸上が放課後一遍に部活動を行う。けが、安全には十分気をつけているが、他校と比べ、アンバランスも感じる。
- ・校区については、長尾、長尾台、長尾南、丸橋の四つの小学校から進学してくる。長尾台小学校以外は、長尾中学校と分かれて進学する。小学校、中学校の連携では課題もあると感じている。適正規模での校区編成も大事だが、一つの中学校へ全員がそのまま進学する校区編成も検討していただきたい。
- ・長尾中学校に 2 階建てのプレハブ校舎がある。学習環境、冷暖房や騒音、また要支援生徒への配慮などが課題になってくるほか、プレハブが建つことによって、校庭が一段と狭くなり、部活動や体育の授業等様々な活動の制限があり、早い解決を望む。

### (3) 討議

- (会長) 教職員のメンタルヘルスのことでご苦労があると思うが。
- (長尾小学校長) 毎年、校内研修会も行うが、日々、早めにキャッチして、市教委とも連携を取りながら、アンテナを張っている。
- (委員) 最近では、個に応じた指導が必要になるが、大規模校という状態での工夫もされているかと思うがどうか。また、教職員用も含めて、トイレの数が足らなくなるような状況はあるか。

(長尾小学校長) 長尾小は、5年前に新築され、校舎そのものには余裕がある。ただ、教育相談に使用するような小さな部屋はないので、少し難しい面はある。トイレなどの施設面では問題ない。

(西山小学校長) 全てを教室に使用し、最低限の特別教室しかない。また、児童数が増えているが、非常階段が1箇所しかなく災害時に心配な面がある。

(南ひばりガ丘中学校長) 適正規模の学校で、トイレの数も問題ない。昨年度、スクールカウンセラー室を整備し、別室登校の学習室の整備も行った。

(委員) 小学校区から見ても中学校区が複雑であるし、中学校区から見ても小学校区が複雑であり、コミュニティの単位、また、会議が多いことのご苦労などはどうか。

(長尾小学校長) 山手台、長尾の両コミュニティの会議に出席している。青少年育成市民会議については、長尾中、南ひばりガ丘中、山手台中の3校に出席している。

(西山小学校長) 逆瀬川ラインとして、地域には光が丘中と宝梅中の2校あり、4小学校から進学する。中学校区の育成市民会議については、宝塚第一小学校と役割分担して出席している。小学校のコミュニティは、校内に建物もあり、連携がいい。

(南ひばりガ丘中学校長) 中学校は青少年育成市民会議の主体。地域のつながりは小学校のほうが強いと考えるが、小中の校区のいびつ性は保護者の負担になる。

(委員) 自治会とコミュニティ、まちづくり協議会についてであるが、どこに所属するかは、市の指導なのか、地域の自発的なものなのか。

(関係部) 住民の自発性に委ね、市の指導はない。自治会の大部分にあるエリアがある小学校に属していれば、その小学校区のコミュニティを形成していった。

(委員) 過去の地縁型、農村型ではなく、学校を中心にした都市型コミュニティを形成し、住民意識を形成していくことを提案したい。

(委員) 新住民の方が多いにも関わらず、「村」を核として、PTAや自治会の会長選出が行われていることなどもあり、自治会とコミュニティの関係の整理も必要があるのではないか。

(担当部) 10数年かけてこういう形を作り上げた。(コミュニティや自治会)の資料も出ささせていただいたが、まずは、学校規模、学校環境の適正化を議論していただき、次に地域の関係を議論いただければと考える。

(委員) トータルなまちづくりを考えると、複合的、複眼的な視点が要る。児童生徒数が減少したから校区統合ではなく、ゆとりを持った校区編制も必要ではないか。

(委員) 私学への流出について、市の教育環境の課題意識として考えているのか。

(西山小学校長) 85人中、光ガ丘中学校に28人、宝梅中学校に31人、私学に26人が進学している。毎年3分の1ずつ、それぞれに進学している。

(長尾小学校長) 殆どが公立の3中学校に進学する状況で、私学進学は少ない。

(委員) 中学校の小規模校の場合、野球、サッカー、吹奏楽など一定の人数が必要なクラブ活動について、他校との連携や地域でカバーする仕組みはあるのかどうか。

(南ひばりガ丘中学校長) 現在、そのような連携例はないが、子ども達にしわ寄せがないよう、そのようなことも視野に入れていく必要がある。

(関係部) 基本的には連携はないが、西谷中学校では、生徒数が少ないため、地域の協力をいただいていることも聞いている。

### (3) 学校見学について

(担当部) 10月か11月に学校見学を予定している。小学校で一番規模の大きい長尾小学校と西谷小学校に次いで規模の小さい中山五月台小学校、中学校で一番、規模の大きい長尾中学校の見学を想定している。

(長尾小学校長) 長尾小学校は規模は大きいですが、体育館以外では施設面では問題ない。次に規模の大きい宝塚第一小学校は、プレハブ校舎もあり、大規模校の難しさを理解していただけるのではと校長会でも議論していたところである。

(会長) 懸案事項として考える。